地域密着型サービス事業者　自己評価表

（ 認知症対応型共同生活介護事業所 ，小規模多機能型居宅介護事業所 ）

事　業　者　名	グループホームはる　なのはな	評 価 実 施 年 月 日	平成19年10月4日
評価実施構成員氏名	猪股久美、本間潔、堀民子、渡辺ひとみ、石垣枝智子、高橋五月、瀬川早紀、鎌田今日子、尾崎智恵子、塚本明子、木幡まさ子		
記　録　者　氏　名	猪股　久美	記　録　年　月　日	平成19年10月26日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ノマド福祉会の理念があり、それにそった「一人ひとりの思いを大切に、自分らしく生活できる自由と安らぎのある家づくりをめざします」という理念がある。	○	今以上の理念の実現に向け、話し合いが必要である。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	会議などで話し合い、取り組んでいると思う。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念をユニット玄関に掲示している。また、家族懇談会などにおいても行う事が出ている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	立ち寄ってもらう、気軽に声を掛け合うという関係性はできていないが、散歩の際に挨拶をしたり、行事の際に交流はある。	○	交流をきっかけに、日常的なつきあいができるように努めていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近隣の保育園との交流、地域の花植えや町内会のレクリエーションに参加したり、盆踊り会を開催し、交流をしている。		今後も色々な行事の企画や地域の行事に参加し交流を深めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	交流はあるが、話し合いや取り組みは行っていない。	○	今後、啓蒙活動など検討していきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価はユニット内で話し合いをし、外部評価の結果を、会議で改善策を話しあい取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自己評価や外部評価について、会議の中で説明し、助言などがある。また、その内容は、グループホーム会議で職員に伝達されている。	○	委員の町内会長から町内会の行事への参加を呼びかけてくれている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者の運営推進会議への参加はないが、介護保険制度のわからない事など常に出向いて確認し、アドバイスを受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内の研修で一部の職員は学んでいるが、職員全員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての理解が乏しく、学ぶ機会も現在行っていない。	○	学習会や外部への研修等行い入居者のよりよい支援につなげていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	防止に努めているが、学ぶ機会は行っていない。	○	今後は、学ぶ機会を持ち、防止への意識を高めていく。
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、入居に際しての質問などは聞くようにしている。また、解約に至る時も同じで、時には主治医に相談し行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人内では、苦情対策委員会や第三者委員会などがある。グループホーム内には、苦情受付担当者を設置している。また、日々入居者や家族が職員に話せるよう、信頼関係を築けるように努力している。	○	苦情がないよう、コミュニケーションをとり信頼関係を深めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に伝えたり、緊急時には電話でその都度伝えている。月1回の広報誌では、日々の様子を伝えている。金銭面では、お小遣いを預かっている方には、毎月出納表を作成し報告している。新しい職員が来た際は、面会時に挨拶をしている。	○	今後は日々の様子を手紙などで伝えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	懇談会などで聞いている。また、第三者委員会もある。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議などで常に職員の意見を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な職員数は確保されている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職に関しては、年々減少してきている。異動は年に1～2回程度にしている。その際は、環境の変化に困難な入居者については、すぐに対応しないなど配慮している、	○	離職がなく、安定するよう努力している。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は、職員の経験年数別に、毎月様々な内容で定期的に行われている。グループホーム内でも、学習会の年間計画を立て行っている。また、道のグループホーム協議会の研修などにも参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修で、交流はしているが、ネットワークづくりにはいたってない。	○	質の向上の為、交流など検討していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	困っている時やストレスを感じている際には、時間を作りはなしている。また、親睦会などでストレスが軽減している。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	面談などを行い、取り組みを行っていると思う。		
II．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者の思いを聞き、信頼してもらえるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族も同様で、グループホームを利用することでの不安があることを理解し、信頼してもらえるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでの生活を行う上で、どのようなことを望んでいるのかを聞きながら少しでも近づけるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ユニットリーダーが事前に訪問し、本人の現在状況や環境、家族からの情報を聞き、それを基に、入居者が早く馴染めるような雰囲気作りを行っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方と過ごす中で、学ぶことがたくさんある。人生の先輩であることを尊敬し、日々共に生活していくという関係づくりをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の状況を報告し、思いを共有し関係作りを行っている。	○	良い信頼関係をつくり、何でも話し合える関係づくりを目指していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思い、家族の思いを考えながらよりよい関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昨年よりは、散歩やドライブの時などなじみの場所にいくことが増えている。友人が来た際には、ゆっくり話が出来る雰囲気作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容　・　実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者のその時々の場面にあわせながら、入居者同士の橋渡しなどの対応をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院退所となった方のお見舞いを行うなど、今までの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中で希望を聞き、カンファランスで検討し、その人らしい生活が出来るようできるかぎり考えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には必ず、生活歴を聞いている。その内容はカルテに記載されいつでもみることができる。入居後も本人や家族に話を聞き、把握するよう努めている。	○	今後センター方式を取り入れより充実していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、行動、言動を観察し、その日、その時の入居者の状況に合わせ、毎日を充実して過ごせるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人･家族から意向を聞き、介護支援専門員を基に、カンファレンスを開催し、課題分析を行い、介護計画を作成している。その際、入居者の視点にたち、その人らしい生活が送れるような計画書を作成するようにしている。作成した介護計画書は、介護支援専門員、管理者が確認している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画書は概ね3ヶ月に1回の見直しをしている。期間に応じての見直しは出来ているが、現状に即した計画書となると遅れ気味にのときがある。	○	現状に即すことができるるよう取り組んでいきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	少しずつ計画書にそった記録をすることができてきている。	○	ザウルスの利用などをし計画書にそった記録になるようにしていく。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人は複合施設のため、デイサービスのレクや特養の行事などに参加することがある。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の中学校の文化祭に参加したり、保育園との交流などがある。	○	今後ボランティアの導入を検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの関わりはない。	○	権利擁護などについて、今後検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	それぞれ主治医がおり、定期的に受診･往診を受けている。9月よりグループホームに看護職員が常勤となり、さらに専門的な支援できるような体制になっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域にはいなく、必要時精神科医や主治医に相談している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が配置になり、相談しやすい環境になっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	その都度認知症の症状を伝え、相談するようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	9月に指針を作成している。一度指針を基に、学習会を開催しているが共有までいたっていない。	○	いつでも対応できるよう学習会を開催し、共有していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に向けた勉強会は行っている。	○	今後に備えて検討していきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族からの情報などでダメージを防ぐことに努力はしているが、なかなか難しい場合もある。	○	家族との話しないなどで、今後も努力していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	その人の思いを尊重した言葉や対応に心がけている。馴れ合いにならないような言葉遣いをするようにも心がけている。申し送り時は、入居者の氏名はイニシャルを使用している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の中で、小さなことでも本人が決められるように促し援助している。介護側が優先しないようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り業務優先にならないよう入居者のペースにあわせるようにしている。しかし、9名全員の希望に沿っての支援ができているとはいえない。	○	業務優先にならないよう、入居者のペースを大切にしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	全員ではないが本人の望む理容室等に行っている。外出時には化粧をするなど支援している。また、家族も外出前などには服の購入などしてくれ協力的である。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	さりげない声掛けで、準備や片付けなどすることができている。献立も本人の希望を聞き取り入れている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容　・　実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて、支援している。健康を考えながら、晩酌を楽しんでいる人もいる。本人から希望がない、いえない場合もさりげなく声をかけたり、顔z区と相談などしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちのいい排泄が出来るよう、パターンをつかみトイレへの誘導などの支援をしている。しかし、パターンの把握が難しい方もいて、汚染になっている場合もある。汚染時は自尊心に配慮しながら行うよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	往診などのため、曜日は決めている。しかし体調や日々の本人の希望には柔軟に対応し入浴を楽しめるように努めている。	○	入浴を拒む方もいるので、様々な方法を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状況をみて、休息できるよう促したりしている。不眠の訴えが有る場合は傾聴し安心感をもってもらえるよう努力している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除やタオルたたみなどの役割、カラオケや生け花、海を見に行くなどの楽しみ、それぞれにあわせた支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことで安心感がもて、安定した生活が出来ていると思う。買物際など自力で支払えるよう見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	以前より買物などの外出が増えている。また、散歩も行い、天候などで館内か外に行くか本人の希望を確認し行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	3ユニット合同で日帰り温泉や一泊温泉にいっている。ユニットでも博物館などに出かけている。また誕生日には、本人の好んでいることや生活歴から考え楽しめるよう支援している。例えば･･･船の仕事をしていた人が家族も一緒に遊覧船に乗るなど取り組んでいる。しかし、家族と出かけることは少ない。	○	家族の負担を考えながら、一緒に楽しめるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室に電話を設置している入居者がいる。電話がない方でも、友人から電話がきた際には、話せるように支援している。家族の誕生日など、カードの作成を一緒に行ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、気兼ねなく過ごせるよう居間や自室問わず過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内、グループホーム内に委員会があり、定期的に話し合っている。その内容は他職員にも周知している。身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることは身体拘束の一部と捉え、行っていない。夜間の一人になる時間、感染症が出た場合は、安全を守る上で行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室の訪室時には特に配慮している。入居者が一人でユニットから出た際は、すぐには声をかけず、そっと見守っている。また行動範囲の広い入居者に関しては、ある程度の距離感を持って把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	針やハサミを持っている入居者には、安全を促している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のため、集中しケアに努めている。事故防止委員会があり、事故報告やヒヤリハットを集計し再発防止策に努めている。	○	薬の事故はゼロを目指し、意識を高め集中していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、学習会で学んでいる。	○	全員が適切に、対応できるようにしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は定期的におこなっているが、地域の協力体制はできていない。	○	地域への働きかけを行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	特変時など常に家族へ連絡し、確認している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面		マニュアルがあり、学習会で学んでいる。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定やいつもと違う行動や状況を確認し、申し送りなどで共有している。また、看護師や管理者に報告をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	それぞれ処方内容が書かれているものはあるが、把握まではできていない。また、薬の事故がある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	散歩、体操(朝ラジオ体操、昼みんなの体操)、水分、牛乳やヨーグルトなどの乳製品などで取り組んでいる。便秘により周辺症状がおこりやすいので、上記のことで改善している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行っている。出来るところは行ってもらい、仕上げなどの介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	健康状態、習慣など考え、楽しみとなるよう支援している。体重も測定し、食事量も検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)。	毎日定期的に消毒をしている。外出後は手洗い、うがいを徹底している。特に昨年ノロウイルスの感染があり、その後強化している。マニュアルもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきんは毎日次亜塩素酸で消毒をしている。食材も新鮮なものを使い、使い切るようにしている。定期的に冷蔵庫掃除もしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	正面玄関は出入り自由だが、近隣の人と入居者が話し合うことはない。ユニット玄関は、花を飾ったりしなごめるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や廊下には季節の花や絵を飾り、居心地の良い空間をつくっている。光などはカーテンでさえぎったり、電気もやさしい光である。居間や食堂の他に休める、椅子や小上がりある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファは、なんとなくすわす場所が決まっており入居者同士会話を楽しんでいる。また、椅子もユニット内数ヵ所にあり、一人で過ごせる場所となっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅から今まで使用していた家具(仏壇、鏡台など)や好みのものを持ち込んで、居心地よく過ごせている。しかし、新しい物ばかりや家具が少ない人もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日室温を確認し、窓を開けるなど換気に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内はバリアフリーで、手すりも設置されている。エレベーターもある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのADLや認知症の状態などを把握し、自力で行えるようさりげなく介助している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには、プランターで花を植えている。ベンチも設置し、日光浴をしている。テラスもあり、散歩や焼肉など楽しんでいる。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の２／３くらい ③家族の１／３くらい ④ほとんどできていない

V．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）
・入居者の立場、視点でその人らしい生活が送れるよう常に考えている点
・豊富な行事
・お祭りや盆踊りなどイベントで地域の人の交流を行っている。
・勉強会や研修を行い、職員のレベルアップに力をそそいでいる点。